

第七十八回 宗像歌会

令和四年十一月十九日(土)

自由詠

あの世は
ちよいと
そこまで
行って見てくるわ
てなわけにはいかないね



岡本 まさ子

題詠『空』

阿蘇の空に
満天の星
高く 高く
舞い上がれ
子供たちの夢



玉田 久美子

月が欠ける
月の光が無くなる
昔の人は
何を想って見たのか
皆既月食ショー



かよべえ

軒先に吊るし柿
心で呟く
「美味しくなあれ」
我が子を育てるように
大事に 厳しく



玉田 久美子

「うしろ」

決めたのは誰?
縛っているのは
自分自身なのかも
開放すれば楽じゃない?

杉下 啓恵

子どもたちは
聞いているか?
見ているか?
考えているか?
日本の大臣たちの言葉を



高原 美智子

何億光年の彼方かたへから届く
澄んだ小さな光が
心を落ち着かせ
希望を思い起こさせる
星空はとも広く 大きい

杉下 啓恵

義妹の住む過疎の村
灯り ぼつん ぼつんと
夜空に 手が届きそうな
黄金色に輝く 大きな星
美しさに 酔いしれた

大槻 幸子



古代ギリシヤ人はロマンがあり偉大
夜空を観て
星座をあみ出し
神話を創った
それを読み感動する現代人

杉本 明美

ツーンと
空気が澄んだ夜
星の光
心に差し込む
季節が変わった



高原 美智子